

千葉県立病院改革プラン（第３期：平成２７～２９年度）の概要について

病院局の使命

- 1 市民が必要とする安全・安心な医療を一人でも多くの市民に提供する。
- 2 健全な病院経営を確立し、市立病院を持続発展させる。

目指すべき病院像

地域医療構想において市立病院に必要とされる機能を備えるとともに、地域包括ケアシステムを中心とした地域完結型医療の確立に向けて、市内の医療機関がそれぞれの特徴を発揮できるよう病院の連携システムを構築し、その司令塔としての役割を果たす。

また、新生児から学童期までの小児医療を含む総合的な母子医療、県内トップレベルの高度な整形外科診療、認知症高齢者の救急医療や終末期医療を含む高齢者医療の確立にも積極的に関与し、少子高齢化に対応する病院を目指す。

さらに、千葉県保健医療計画（平成２３～２７年度）における５疾病（がん、脳卒中、急性心筋こうそく、糖尿病、精神疾患）、４事業（救急医療、災害時医療、周産期医療、小児医療）に対応するとともに、青葉病院での血液疾患や身体合併症を有する精神疾患、海浜病院でのがん診療や小児・周産期医療など、政策的医療にも積極的に取り組む病院を目指す。

プラン策定の背景

【現改革プランの評価】

小児・周産期医療や救急医療など政策的医療の提供については、おおむね必要とされる機能を担っていると評価できるが、整形外科を集約した効果が表れていない。また、夜勤に必要な看護職員が不足し、一部の病床を休止せざるをえなかったことなどから病床利用率が伸び悩んだ。

【現状の課題】

現改革プランで進めた人員増などに見合った医業収益が確保できず、その結果、資金収支の悪化を招いている。また、中長期的な人材育成計画や、多職種が連携する医療に対応した職種別人材育成計画の策定が必要である。

基本方針

- ・現改革プラン（新改革プラン）にて掲げた「病院局の使命」を引継ぐ。
- ・自治体病院としての使命・役割を理解し、市民から期待される役割を自ら考えることのできる職員の育成を目指し、人材育成を強化する。
- ・現改革プランの評価を踏まえ、経営改善を強力に推進し、医業収支比率９０％以上を目指す。

主要指標・収支計画

別紙

取り組みの方向性

１ 政策的医療の提供

青葉病院の血液疾患、救急及び精神疾患への対応、海浜病院のがん診療の強化及び周産期・小児医療の充実を進め、安心して産み育てることのできる母子医療、認知症高齢者を含む高齢者医療、災害・救急医療への対応を図る。

（具体的取組）

- ・「断らない救急医療」の取り組みを進める。
- ・血液内科や児童精神科など、特色ある医療を充実させる。
- ・小児救急やハイリスク分娩への対応など、小児・周産期医療の中核を担う。
- ・地域災害拠点病院及び災害医療協力病院としての機能を強化する。

２ 人材育成の強化

病院局の使命を理解し、市民から期待される役割を自ら考え、多職種の連携する医療において個々の能力を発揮できる職員育成を目指し、人材育成に関する教育システムを確立するとともに、必要な人材を確保する。

（具体的取組）

- ・病院局の使命を理解し、行動できる真のプロフェッショナルを育成する。
- ・地域包括ケアシステムの確立に貢献できる人材を育成する。
- ・多職種が連携する医療に対応した具体的人材育成計画を策定する。
- ・経営マインドを持った人材を育成する。
- ・人材育成の取り組みを推進するため、研修費用を十分に確保する。

３ 安定的な経営基盤の強化

政策医療を継続的に提供するため、現改革プランで進めた職員の増員や設備投資に応じた医業収益を確保し、医業収支比率９０％以上を目指す。

（具体的取組）

- ・地域医療機関との連携を強化し、紹介率を向上させることで入院患者を増加させる。
- ・整形外科については、２病院の資源を活用し、効果的な診療体制を確立する。
- ・DPCデータの分析結果を活用し、より良い医療の提供に向けた取り組みを進める。
- ・業務プロセスの標準化・共通化を進め、薬品の採用ルールの一統、診療材料の共通化など、費用削減の取り組みを進める。

４ 地域包括ケアシステムへの貢献

病診連携を強力に進めるとともに、市内の医療機関がそれぞれの特徴を発揮できるよう病院の連携システムの構築において司令塔としての役割を発揮するほか、介護事業者などとの連携を進める。

（具体的取組）

- ・在宅療養後方支援病院として、在宅医療を実践する開業医を後方支援する。
- ・地域の医療介護関係者を対象とした研修会や勉強会を積極的に実施する。
- ・市担当部門と連携し、市内病院の地域連携担当者によるネットワークを構築する。
- ・市民に対して積極的に情報提供し、市民の医療に対する意識の向上に寄与する。